

【オープン・セッション】

2 日目 (12/8/Sun) 13:00-14:00 D31 教室

ふりかえり用紙の質問項目の検討 —未来志向の項目をデータから考察する—

なかむら みえこ
中村 美枝子
(流通経済大学)

キーワード：ふりかえり、質問項目、未来志向

【 企画や報告の形式 】

実践報告 & ミニワークショップ

前半：ふりかえり用紙において未来志向の質問項目がもたらす影響を報告します。

後半：参加者の皆さんからアイデアや提案を募り、今後の展開を検討します。

【 企画や報告の内容 】

ふりかえりは重要だと言われている。ふりかえりのために演習があると言われることさえある。そこで、ふりかえり用紙の質問項目を検討することにした。演習に対する満足度や演習への参加実感についてたずねる質問項目のほか、「何を学んだと思うか」と「どのような場面でいかせると思うか」という2種類の質問項目に注目した。前者は演習での経験をふりかえる問いかけであり、後者は演習での経験を未来にあてはめる問いかけである。ここでは後者を「未来志向の質問項目」と呼んでその影響を調査した。具体的には、未来志向の質問項目の有無が満足度の高さに及ぼす影響、満足度と参加実感の相関に及ぼす影響についてデータを分析した。分析の結果、未来志向の質問項目が及ぼす影響は一樣ではないこと、影響の程度は緩やかであることが観測された。主な傾向として、未来志向の質問項目があることによって満足度が高まる傾向、未来志向の質問項目があることによって満足度と参加実感の相関が高まる傾向などがみられた。

ところで、参加者の回答は様々な要因の影響を受ける。たとえば、演習の内容（競争型か協力型かなど）、演習の結果（成績の良し悪しなど）、チームの雰囲気（リーダーシップ、チームワークなど）などである。そうだとすると、どのような質問を投げかけるかは、気づきの方向性や範囲にとって重要である。何を学んだかを考えるだけでなく、どのような場面でいかせるかを考えることで、参加者は未来に向けて想像力をかきたてられる。そのことが演習の満足度を高める可能性はあるだろう。それが実際の行動に結びつくかどうかはわからないが、気づきの方向性や範囲をより現実的で応用力のあるものにするための質問について研究することは重要であろう。

【 参加者への期待 】

前半はデータの分析結果を報告します。後半は参加者全員で、未来志向の質問項目に関連するアイデアや提案を出し合い、これからの方向性を探りたいと考えています。4~5人のワールド・カフェ方式で行なう予定ですので、未来志向の質問について考えをあたためておくこと、あるいはまっさらな状態で前向きに参加して下さることを期待します。

【オープン・セッション】

2 日目 (12/8/Sun) 13:00–14:00 D33 教室

実習今昔

—どのような学びの場を提供していますか—

すぎやま いくこ
杉山 郁子

(グループファシリテーターの会 Seeds、日本体験学習研究所)

キーワード：実習、実施選択、ラボラトリー体験学習

【 企画や報告の形式 】

ラボラトリー方式の体験学習で実習を行う際に、どのように実習を選択しているかを、使用されている実習の今昔を参考にして、参加者の皆さんと共に考えていきます。

【 企画や報告の内容 】

学生時代に実習に出会って35年以上を過ぎた担当者が、自分の体験から古くから今も使われている実習、古くは使われたが最近あまり使われない実習、最近よく使われる実習などを紹介します。その上で、なぜ変わらず使われている実習と使われなくなった実習があるのかを皆さんと一緒に考えていきます。

また、自分自身がどのような場でどのような実習を実施しているか、何をポイントにして実習を選択しているかを、互いに経験を基に検討します。そのことを通して、実習に対する期待や実習のもつ力など実習に対する理解を深めると共に、自分自身のファシリテーターとしての視点などにも気づけるチャンスになればと考えています。

オープンセッションの中で、互いのやり取りの中から生まれてくるものを、大切にしたい時間を過ごしたいと考えています。

【 参加者への期待 】

担当者が提供するだけでなく、互いにやりとりを中心に進めていきます。実際に実習を使った体験学習の研修などを実施している方や、実施する可能性のある方で、実習の選択がどのような意味を持つのかに関心の深い方々との、率直なやりとりを楽しみたいと思います。

【オープン・セッション】

2 日目 (12/8/Sun) 13:00-14:00 D34 教室

体験学習を導入した建設業の安全教育・訓練への試み

きたぞえ しんご
北添 慎吾
福田道路株式会社

キーワード：建設業、プロセスエデュケーション、学ぶ意欲

【 企画や報告の形式 】

実践報告

建設業の安全教育・訓練に、プロセスエデュケーションやネイチャーゲームといった体験学習を導入することで、学ぶことを嫌う人達にどうやって「気づき」を得てもらえるのか？その実践報告を発表します。

【 企画や報告の内容 】

建設業の安全対策は、立ち入り禁止措置や不安全行動など禁止行為を定めたものが中心ではあるものの、近年の様々な安全対策（様々な安全装置や現場での創意工夫）により、事故による死傷者数を大きく減らすことができました。効果を上げてきた建設業の安全対策ではありますが、マニュアルや安全書類の整備、安全装置の設置などルールを守る事のみで気をとられて、環境や社会情勢の変化（高齢化・高速化・高度化・責任の所在）に対応できないまま、潜在している高いリスクに気がついていない人がいることも忘れてはいけません。

最近の安全教育は、概念学習（知識伝達型・答えは学習者の外に）が大半を占め、本来は体験学習（気づきの学習・答えは学習者の中に）であるはずの、現場での危険予知活動やヒヤリ・ハット活動等がマンネリ化してしまい、若手の手本となるはずのベテランによる事故が増加しています。そのような状況に対応して、通常の労働安全に関する座学とは別に様々な工夫を行ってきました。そのなかでプロセスエデュケーションやネイチャーゲーム・プロジェクトワイルドといった体験学習が、建設現場の大人にも十分に「学ぶ意欲を醸成させるプログラム」であることがわかり、現場の安全教育に採用することにしました。実施時の反応は良く、新鮮さもあってメンバーのほとんどが真剣に取り組む姿がみられ、リーダーを立てるグループやそうでないグループもあり、通常は人前で言葉を交わさない人たちが活発に意見を交換していました。アイスブレイク→問題解決実習→コンセンサス実習→実際に発生した事故事例を元に解決策を考える実習の流れで実習を行い、グループ内での活発な意見交換と集約が可能になりました。また、「そこまで言って委員会」の実践やグループ内の上下関係の有無の実験結果などを報告したいと思っています。

【 参加者への期待 】

体験学習を実践していて感じることは、子供は正直であるということです。つまらないアクティビティと面白いアクティビティの区別がはっきりとわかります。これが大人だったらどうでしょうか？その点、建設業で働く人たちは子供がそのまま大人になったような純粋な人達が多い世界です。「いや、どこも同じだよ」、「私たちの世界ではこんなことやってるよ」など、多様な意見交換をしていきたいと考えています。

【オープン・セッション】

2 日目 (12/8/Sun) 13:00–14:00 D41 教室

ハンドベル演奏をしてみませんか？ —ハンドベル演奏活動の可能性を探る—

なかお ようこ
中尾 陽子
(南山大学経営学部)

キーワード：ラボラトリー方式の体験学習、ハンドベル演奏、気づき

【 企画や報告の形式 】

ハンドベル演奏体験 → 気づきのわかちあい → フリーディスカッション

【 企画や報告の内容 】

皆さんはハンドベルという楽器をご存知でしょうか？ 演奏を聴いたことがある・見たことがある、という方はたくさんいらっしゃるかもしれませんね。

ハンドベルは、他の楽器とは少し異なる、独特の方法で演奏をする楽器です。その演奏を概念的に説明すると、一台のピアノを数人で協力しながら演奏するようなものとも言えるかもしれません。演奏者は、1セットのベルを8人から20人程度で分け持ち、自分の受け持った音をタイミングよく鳴らすことによって、曲を作り上げていきます。そのため、ハンドベルの演奏はメンバーの誰か一人が欠けても成り立たず、複数の人が協力することではじめて演奏を実現できるという特性を持っています。このような特性から、ハンドベルは練習や演奏を通して責任感や協調性を養うことのできる教育楽器としても注目され、現在多くの学校のクラブ活動などにも取り入れられています。

このセッションでは、ハンドベルの演奏を皆さんと一緒に体験しながら、ベルの演奏を実習課題として体験学習に取り入れていく可能性について、ご意見を聴かせて頂いたり、ご一緒に考えてみる時間にしていきたくと思っています。私自身はこれまでの経験を通して、この楽器が“人と関わる力”を育てるために有効な楽器だと感じているのですが、他の方はどのように感じられるのかな？という関心もあります。ハンドベル演奏体験をしてみて、実際にその場で感じたことをざっくばらんにわかちあいながら、この活動の可能性を探っていければと思っています。

【 参加者への期待 】

ハンドベルは、楽譜が読めない方でも演奏可能な楽器ですから、楽譜を読んだり楽器を演奏することに苦手意識のある方も、どうぞ気軽にご参加ください。お互いサポートしあいながら演奏を創っていく楽しさも実感出来れば、なお幸いです！